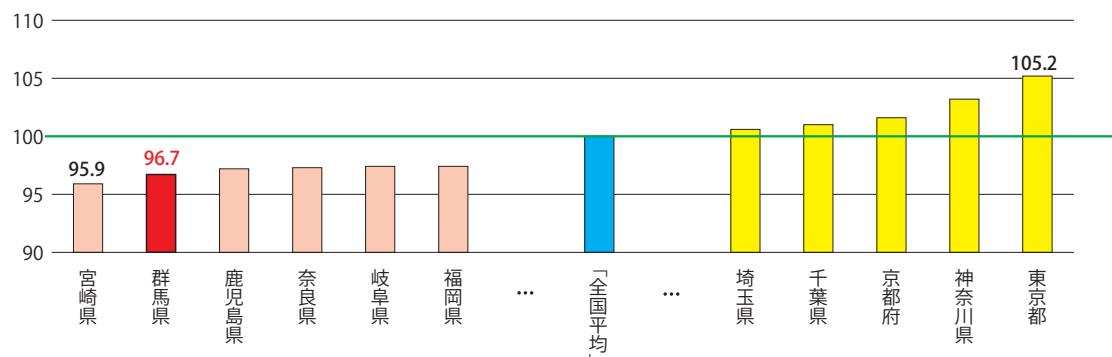


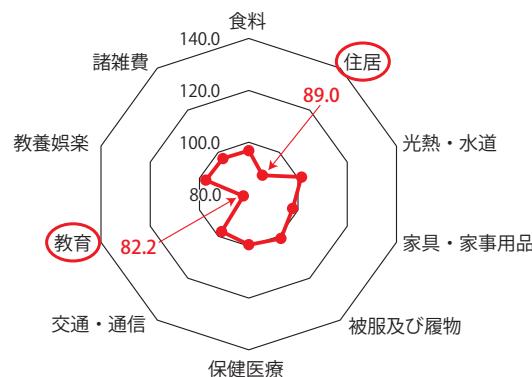
- 総務省「小売物価統計調査」から消費者物価地域差指数^(注)(総合)のデータをみると、本県は96.7と、宮崎県に次いで全国で2番目に物価水準が低い(図表1)。
- 10大費目別に内訳をみると、本県は「教育」と「住居」が全国に比べて低いのが特徴である(図表2)。特に「教育」については、「学習塾代が安い」等の要因によって、全国で最も低い水準(82.2)となっている。
- 一方で、1番高いのは105.2の東京都であり、ほとんどの費目で全国平均を上回っているが、なかでも、「住居」の水準が突出して高い(図表3)。
- 東京都から近い距離にあり、高速道路網が整っているにも関わらず、物価が安い本県は、生活者目線では恵まれていると考えられる。

(注)消費者物価地域差指数：各地域の物価水準について「全国平均を100とした指数値」で示したもの。つまり、数値が100より小さいほど、物価水準が全国平均に比べて低いことを意味する。

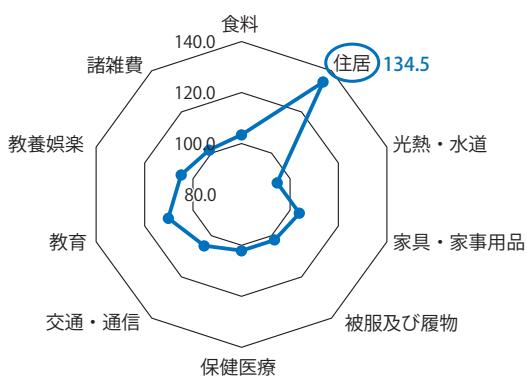
図表1 消費者物価地域差指数(総合・2020年)



図表2 費目別地域差指数(群馬県)



図表3 費目別地域差指数(東京都)



資料出所：総務省「小売物価統計調査」

本調査は、消費者物価指数やその他物価に関する基礎資料を得ることを目的とし、全国的規模で国民の消費生活上重要な財の小売価格やサービスの料金及び家賃を、店舗及び事業所を対象として調査している。調査は、物価の動向を把握するための「動向編」と、地域別や店舗形態別の価格差などの物価の構造を把握するための「構造編」で構成されている。

(担当：伊勢和広)